事業展開による“ことづくり”と“地域づくり”

諸冨　一文　　林学科（現･森林総合科学科）出身
諸冨林産興業 社長
九州緑資源開発 副社長
（社）福岡県宅地建物取引業協会 常務理事　etc.

１．地域づくりを行うためには、どのような資質を持った人材が必要か？

ここでの議論は「地域づくりのリーダー」に限定するのであれば、少なくとも以下のような資質が必要であると思います。

〇基本的な資質

・　地域に対する愛情と貢献意欲に関する資質
・　長期に渡って、辛抱強く地域の改善、向上を見守れる資質
・　地域とその市場である都市部や海外の両方の言葉や風習が理解でき、その地域と都市や海外間を橋渡しをする資質
・　各地域の特性（産品、地政学的優位性、人材的優位性）を活かせるだけの専攻技術に関する資質（農業技術の他、会計、組織運営力など）
・　国内外の政治及び経済、国の自治体の行政の動向を理解し、見定める資質
・　地域のビジョンや戦略を構築する資質
・　地域に根付いた従来型の風習を理解しつつ、改善する方法を取りまとめ、かつ周知できる資質
・　幅広い人脈（地域内のみならず、国内外、及び得意分野内外など。大学時代の友人なども非常に有効かと思います。）

人間一人でこれだけの資質を持った人はなかなかいないと思います。ですから、何人かでこれら資質を相互補充するという方法もあるかと思います。

２．地域づくりを担う人材を育成するためには、大学はどのような教育を行えばよいか（地域づくりとなる人材を育成できるような実学教育のフレームワーク）

私が大学に期待するのは以下のようなことです。

・ 当然ながら、まずは専門分野の習得（専門分野がちゃんとできなければ話になりません）
・ 海外留学生との積極的な交流

　大学のうちに海外アレルギーをなくすこと。海外からの留学生のうち、特に発展途上国からの留学生は母国に帰ったら偉くなる人もいます。こういった方々と普段から議論することは、国際的な視野を広げるためにも、語学力を身につけるうえでも、さらには将来の人脈づくりのためにも有効です。

・ ディスカッションの場の有効性

　まずは、ディスカッションすることにより、多様な意見を受け入れかつ自分の意見を発信する訓練をすること。海外に比べ日本の大学はディスカッションやディベートの場が少ないのではないでしょうか。そういうことがもっと当たり前になるような風土づくりが必要ではないで

しょうか。テーマは、国内外の経済、政治、宗教、文化、地域観など何でも議論すべきです。

・ OB ネットワークの強化

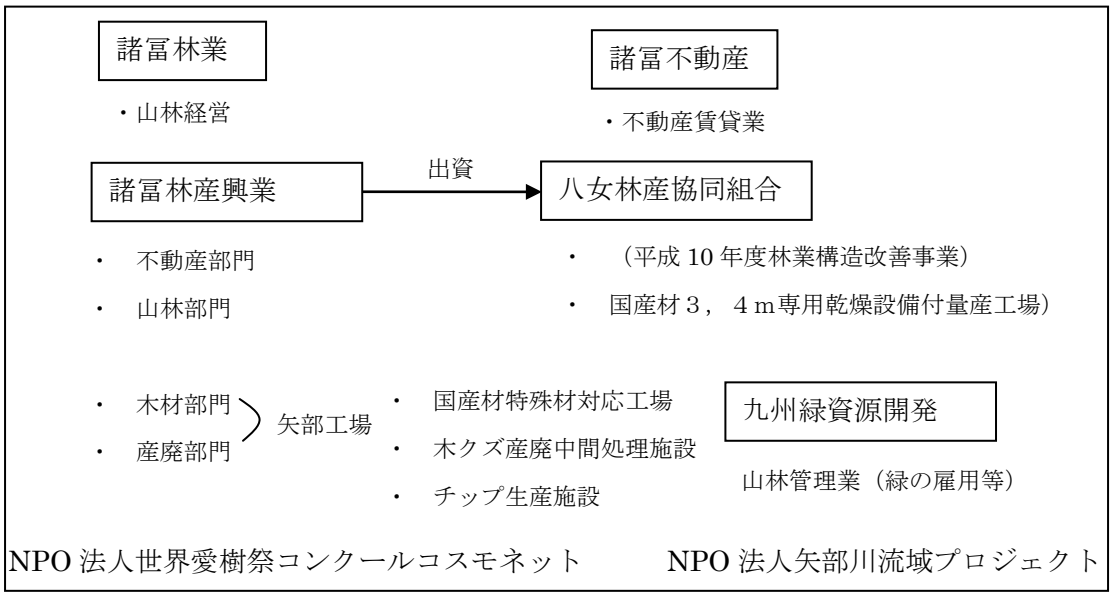
・ 地域づくり成功事例・失敗事例などを紹介

特に念を押したいのは、必ず「失敗事例」を勉強していただきたいということです。得てして、地域づくりの議論の場合産業的、地理的、人材的背景があるためでもあり、この成功事例が他の地域でそのまま活かされることはあまりないように感じるからです。一方で、失敗事例は、どの地域にも当てはまるような非常に共通した問題が含まれています。（例えば、行政と利権者が時代の変化を顧みず独善的に行動した、地域が一致団結せず投資が効果的でない、など）こういったことを産業的な側面、政治・行政的な側面から教育してみてはいかがでしょうか

３．これからの地域づくりのあり方と、そのための枠組み（人材の受け入れ態勢）はどうあるべきか？「なぜ、地域づくりをしないといけないのか？」

今から人口も減りますし、都市部への人口流入も加速します。となれば、当然地方の人口は減り産業も衰退するわけです。自然の流れに身を任せ、もう地域づくりを放棄してしまった方が経済効果が良いような地域も多々出てくるでしょう。また、単なる望郷の念だけで地域振興・地域づくりを唱える人も多いですが、私はそれだけでは賛同できません。経済的に不合理ですし、無理して地域づくりをしたところで経済的な優位性がなければ継続はできません。「なぜ地域づくりをするのか？」と問われれば、私は、「その地域にダイヤの原石が埋まっていて、やりようによってはこれが十分に産業になって、皆が栄えることができるから」だと思います。

＜現在の役職・地位＞

諸冨林産興業　社長、諸冨林業　副社長、八女林産（協）理事、九州緑資源開発　副社長

経営概況（主要経営部門・経営組織もしくは会社組織の構成図）